

**アキギボウシ** *Hosta longipes* (Franch. et Sav.) Matsum. var. *lancea* Honda (裏表紙写真)

**【評価理由】**

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、地域固有性 4、総点 13。分布域の狭い固有変種である。

**【形態】**

多年生草本。茎は短い。葉は数枚束生し、長さ 10~25cm の柄があり、葉身は卵形、時に長卵形または広卵形、長さ 13~28cm、幅 5~13cm、先端は鋭尖頭、基部は浅い心形のことが多いが広くさび形のこともあり、裏面は粉白を帯びるものと帯びないものがある。側脈は片側に 6~8 本ある。花期は 8 月下旬~9 月、花茎は長さ 15~30cm、先端の長さ 8~23cm の総状花序に多数の花をつける。苞は長卵形~広披針形、時に倒長卵形、長さ 1.3~3cm、開花初期には斜開するが、末期にはしおれる。花冠は長さ 4~5cm、狭筒部は広筒部より短く、先端は 6 裂し、淡紫色である。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

東：1 富山 (芹沢 87922, 2012-9-22)、2 豊根 (芹沢 87914, 2012-9-22)、3 東栄 (芹沢 87350, 2011-9-13)、7 設楽東部 (芹沢 82059, 2007-8-18)、8 鳳来北東部 (芹沢 82167, 2007-9-2)。

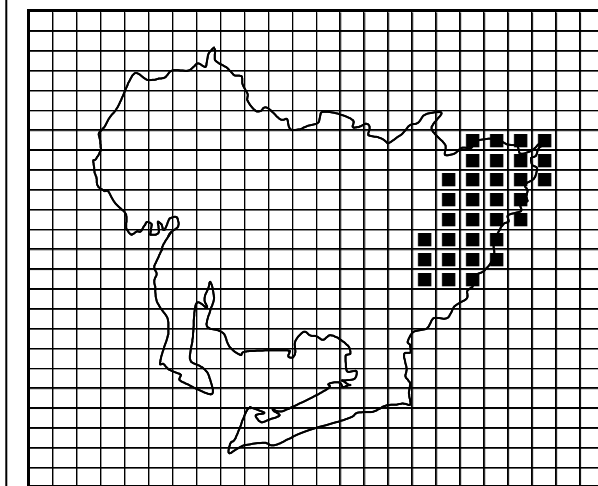
**【国内の分布】**

本州 (静岡県西部~愛知県東部)。

**【世界の分布】**

日本固有変種。種としても日本固有である。

要配慮地区図



**【生育地の環境/生態的特性】**

通常は川沿いの岩場に生育するが、鳳来寺山では尾根近くの岩場にも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

**【現在の生育状況/減少の要因】**

どこにでもあるというわけではないが、ところどころに群落がある。ウラジロギボウシほどではないが、園芸目的で採取されることがある。道路拡幅のため消滅した自生地もある。

**【保全上の留意点】**

川沿いの岩場地形の保全が求められる。道路工事の際には特に注意が必要である。

**【特記事項】**

基準変種のイワギボウシとは、低標高地の川沿いの岩場に生ずること、花期が遅いことで異なる。ホソバイワギボウシと呼ばれることもあるが、葉形はイワギボウシとさほど変わらない。葉裏が白色を帯びるものはしばしばウラジロギボウシと混同されるが、葉数が多く、花期が遅い。

**【関連文献】**

杉本順一. 1984. 静岡県植物誌 p.603. 第一法規出版, 東京.